

公募シンポジウム6

歯科医療の変曲点で我々なにをなすべきか

2020年11月21日(土) 14:20 ~ 16:00 C会場 (コンgresセンター4階・41会議室)

[4-C-2] 歯科医療の変曲点で我々はなにをなすべきか

*森本 徳明¹、澄川 裕之²、野崎 一徳³、新美 泰恵⁴、宇佐美 伸治⁵（1. 矯正歯科森本, 2. (医)里山会 澄川歯科医院 / 匹見歯科診療所, 3. 大阪大学歯学部附属病院 医療情報室, 4. 新潟大学医歯学総合病院 医療連携口腔管理治療部, 5. 日本歯科医師会常務理事）

*¹, Hiroyuki Sumikawa², Kazunori Nozaki³, Kanae Niimi⁴, Shinji Usami⁵（1. 矯正歯科森本, 2. (医)里山会 澄川歯科医院 / 匹見歯科診療所, 3. 大阪大学歯学部附属病院 医療情報室, 4. 新潟大学医歯学総合病院 医療連携口腔管理治療部, 5. 日本歯科医師会常務理事）

キーワード : Dental Care Posture, Community-based comprehensive care system, Medical Cooperation, Online Dental Care, Online eligibility verification

人口動態の変容や疾病の構造変化に応じて、各地域での医療態勢や地域包括ケアシステムの体制の変化が求められており、歯科においても、在宅医療、口腔ケアや摂食嚥下リハ等で積極的に関わってゆくと同時に医科など関連職種との情報連携も必須となってきている。さらに、日本の人口偏在が顕著になってきている今、地方では、住民の高齢化に加えて、医療・介護・福祉の担い手が減少および高齢化してきていることも大きな問題になっている。一方で、今回、コロナ禍により人の移動、接触を最小限にとということで、オンライン診療が大きく認められることとなった。このような流れの中で、今回、過去の議論に加えて、「医療をはかる～規・測・図・諮・謀・慮～」という大会テーマに応じて、今回の玉川先生の共同企画と連携して、今後の歯科医療の変化とそこにおける医療連携の方向とICT等による歯科医療の変貌を「はかる」ことを目標とする。特に、歯科医療過疎地域の現状とそれを医療連携や新技術でカバーしていくことが可能か、歯科におけるオンライン診療の可能性や、来春より稼働予定のオンライン資格確認などについて、歯科診療の現場、大学での情報管理担当者、医療連携担当者および日本歯科医師会という異なる立場のシンポジストからお話しいただき、さらなる議論の場としたい。

歯科医療の変曲点で我々はなにをなすべきか

森本 徳明^{*1}、澄川 裕之^{*2}、野崎 一徳^{*3}、新美 奏恵^{*4}、宇佐美伸治^{*5}

*1 矯正歯科森本、

*2 (医) 里山会 澄川歯科医院/匹見歯科診療所、

*3 大阪大学歯学部附属病院 医療情報室、

*4 新潟大学医歯学総合病院 医療連携口腔管理治療部、

*5 日本歯科医師会常務理事

What should we do at the inflection point of dentistry

Noriaki Morimoto^{*1}, Hiroyuki Sumikawa^{*2}, Kazunori Nozaki^{*3}, Kanae Niimi^{*4}, Shinji Usami^{*5}

*1 Morimoto Orthodontic Office,

*2 Med. Corp. Satoyamakai Sumikawa Dental Clinic/Hikimi Dental Clinic,

*3 Osaka University Dental Hospital,

*4 Oral Management Clinic for Medical Cooperation,

*5 Standing Director, Japan Dental Association

Keywords: Dental Care Posture, Community-based comprehensive care system,

Medical Cooperation, Online Dental Care, Online eligibility verification

1. 本セッションの趣旨

人口動態の変容や疾病の構造変化に応じて、各地域での医療態勢や地域包括ケアシステムの体制の変化が求められており、歯科においても、在宅医療、口腔ケアや摂食嚥下リハ等で積極的に関わってゆくと同時に医科など関連職種との情報連携も必須となってきている。さらに、日本の人口偏在が顕著になってきている今、地方では、住民の高齢化に加えて、医療・介護・福祉の担い手が減少および高齢化してきていることも大きな問題になっている。一方で、今回、コロナ禍により人の移動、接触を最小限にということで、オンライン診療が大きく認められることとなった。このような流れの中で、今回、過去の議論に加えて、「医療をはかる ～規・測・図・諮・謀・慮～」という大会テーマに応じて、今後の歯科医療の変化とそこにおける医療連携の方向と ICT 等による歯科医療の変貌を「はかる」ことを目標とする。特に、歯科医療過疎地域の現状とそれを医療連携や新技術でカバーしていくことが可能か、歯科におけるオンライン診療の可能性や、来春より稼働予定のオンライン資格確認などについて、歯科診療の現場、大学での情報管理担当者、医療連携担当者および日本歯科医師会という異なる立場のシンポジストからお話いただき、さらなる議論の場としたい。

上記のことを達成するために、4名のシンポジストにお願いし総合討論の場を設けることとしました。

まず、最初は、島根県歯科医師会医療管理部 澄川裕之先生より、島根県の歯科医療の需給問題の現状と将来予測、そして限られた医療資源を最大限に活用するための新技術を導入した医療連携の可能性をお話いただく予定です。

次に、新潟大学医歯学総合病院医療連携口腔管理治療部 新美奏恵先生より新潟大学で診療部門として独立した医療連携口腔管理治療部の活動内容と今後の診療所との連携に関する課題等をお話いただくことといたします。

続けて、大阪大学歯学部附属病院医療情報部 野崎一徳

先生より、大学病院からのオンライン診療や地域医療ネットワークの参加についての取り組みや、可能であれば S2DH や myDentaAI、歯科サイバーフィジカル等を推進しており、歯科診療ビッグデータ運用基盤の構築や歯科診療 AI の開発にも広げてお話をいただく予定です。

最後に日本歯科医師会の今後の見通しについて、すぐに来るオンライン資格確認システム導入等を中心に常務理事 宇佐美伸治 先生よりお話しいただくことといたします。

それぞれの立場より非常に興味深いホットな内容をお話いただけることと思っておりますので、現地およびオンラインでの多くの方のご参加を期待しております。